

しいのき



〔企画展示：絵馬一託す心・人々の願いー：10月1日⇒11月16日開催：休館日＝月曜日と10月20日〕
〔記念講演：岩井宏實氏(国立歴史民俗博物館教授)：10月13日(日)14:00より：観覧料 大人100円・小人50円〕

新しい絵馬の発見

名誉館長 三隅治雄

日本の民衆のさまざまな願いごとを板絵で表現したのが、絵馬です。ほんらい、神に献上する生き馬を、土製、木製のものに変え、さらに板絵に改めたのが発端だと申しますが、中世以後、馬に限らず、各自の祈願の意を画像化して板にえがく風潮がつよまって、各地の神社・仏閣は形さまざま色さまざまの絵馬の奉納で、さながら巷の画廊の観を呈するようになりました。

わが中野区でも、当然、あちこちの社寺に絵馬の奉納があったはずで、今年の春、佐々木利和、茂木曙氏の協力をえて調査を行ったところ、江戸時代後期から明治初期にかけての大絵馬の逸品が発見されました。今回の絵馬展には、その大絵馬11点と小絵馬2点を、館所蔵の700点のコレクションに加えて展示しますが、今後なお新しい発見があればと願っております。

文化財よもやま話

大地に眠る歴史

悩みは小絵馬に託して

「秋深し、となりは何をする人ぞ」といった季節になりました。虫の声がさわやかながら、静けさが、深く窓の外にたたずみ、心のやすらぎを感じる頃でもあります。呑気なのは筆者だけ、となりの受験生は今やおいこみに入ってきています。志願校に入るのは至難のわざ、つつい絵馬にて神頼み。現代人の一生で、本気で神に頼るのは、これが最初のことかもしれません。

このように、願いをこめて、奉納する小さな板が小絵馬です。今や、主流は受験が一番多いのですが、そうなったのも戦後のことで、戦前に託した願い事には、人に言えない様々な悩み事があったのです。

その頃の小絵馬の絵柄は、それぞれの、願い悩みの内容を、意味するものであったのです。鷹は安産・子授かり、大根はなまってダンコンで夫婦和合、栗ははせて身が出て安産祈願、お地藏様は子育て全体、鬼は魔除け軒守り、といった具合です。ところが、一つだけ、内容のわからぬ絵柄が



▲母親おがみ(大正時代・奈良) この母親は何をおがんでいるのでしょうか。それは「おがみ図」です。おがみ図は、家族・男・女・娘などがおがんでいる図ですが、そのおがみの内容は、それぞれの人に言えぬ悩み事、それを反映しているからです。絵馬本来の意味するところは、このおがみ図に見ることができそうです。この他に様々な意味はありますが、当館企画展にてご覧下さい。

企画展【絵馬—託す心・人々の願い—】
『展示図録』 1冊 600円

謎の大溝

最近、盛んに話題を提供している「江戸遺跡」ですが、その中心は江戸時代の市街地のあったところ、つまり現在の山手線の内側や東京湾岸の、御府内と呼ばれる範囲にあります。しかし、大木戸を出たところに江戸時代の遺跡が全くないわけではありません。例えば、近郊農村・中野は田園地帯で農家が点在しており、近世の遺物として陶磁器・土器などが出土します。一方、遺構には土坑や建物跡が発見されることがありますが、中でも目立つのは大規模な溝の跡です。



▲ U字形溝



▲ V字形溝

この写真は遠藤山遺跡でみつかった溝です。幅は約2mで、①断面U字形の浅い溝(深さ0.5m) 2本がセットになって平行しているもの、②断面V字形の単独の溝で底が深い(1.2m)もの、2種類があります。どちらも長さ数十m以上で、曲ったり、交差するところもみられます。興味深いのは、区内各所で似たような溝が発見されていることで、片山・平和の森公園北/新井三丁目など、台地上の遺跡の多くで認められます。

さて、ここで問題となるのは、このような大きな溝を掘った目的ですが、恒常的に水が流れていた水路の形跡はみられません。道路の側溝という説もありますが、高台の端の崖近くに大がかりな道をつけるというのも不自然です。

ひとつの解釈は、畑の地割り・区画のために掘ったとする見方ですが、なぜ大規模なつくりにしたのか、2種類の断面形があるのか、など溝をめぐる疑問点は深まるばかりです。どなたか事情をご存知の方がおられましたら、御教示をいただけますでしょうか。

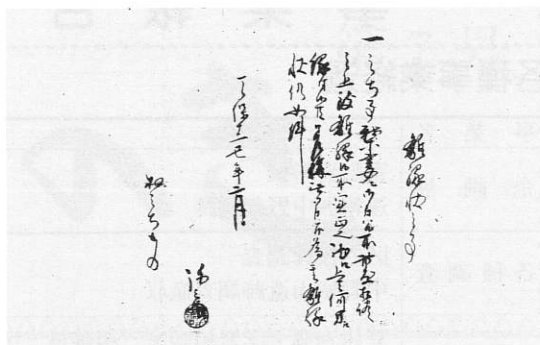
古文書つづり

離縁状

天保八年(1837)の『米価銭相場高直ニ付諸色直下ケ御請書連印帳』という中野村の諸業者が連名で捺印している古文書には、「絵馬屋 政次郎」の名が見えます。いつの時代にも婚姻関係は人生の重大事で、縁切り、縁結びは絵馬の大きな主題となっています。中野の絵馬屋で知られたこの政次郎(二代目東溪)も、縁切りや縁結びの絵馬を描いたのでしょうか。

さて、「離縁状」は、もっとも知られている古文書の様式でしょう。婚姻関係解消の文言を三行半で記すことから、「三くだり半」と呼ばれているものです。これは、中国の小説にみられる「休書」(離縁状)の三行半を模倣したものといわれ、时期的には18世紀前半頃から見られるようです。

写真の離縁状は中野地域のもので、「離縁状の事」という事書(表題)があり、離婚するという文言と、誰と再婚しようともかまわない旨の再婚



▲ 天保12年(1841)の離縁状

許可文言からなる三行半の本文、作成年月日、差出人(夫)、名宛人(妻)の構成となっています。

離婚理由は記載しないのが普通で、この文書のように「此度相談之上」とか、「我等勝手に付」等と記載される場合もありました。これは、責任の所在を明らかにし、妻に責任はないことを保証する文言です。つぎに必ず再婚許可文言が記載されます。この文言だけの離縁状もあるように、離縁状が作られるもっとも重要な要件でした。

こうしてみると離縁状は、全体的に女性側の再婚を慮って作成されていると考えられるのです。

中野往来

えまやの墓 中央3-33-3 慈眼寺墓域内

中野に昭和初年まであった絵馬屋、鎌田家の墓前の線香立てには、『えまや』と記されています。墓の主は、鎌田東溪といい、青梅街道に面した豊多摩郡中野村4047番地(現、本町3-30-12付近)で絵馬屋を営んでいました。

この絵馬屋は、4代目東溪(佐吉)で廃業してしまいましたが、当館では東溪作の白鷹や経木絵馬など数点を収蔵しています。

東溪の絵馬は、千葉県や埼玉県でも見ることができますが、上尾市内の藤波天満宮には、明治29年(1896)作の火雷神の絵馬があります。



中野昔話

おぢんめ売り

お稲荷様は五穀豊穰をいのる大事な豊作の神様です。初午の日には幟を立ててお祭りをいたします。

しかし、こうした幟も当時の店の少ない江古田村では売っていません。このような物はその時期により色々な物売りが来ました。初午の幟や絵も、2ヵ月くらい前から「おぢんめ売り」のおばあさんが必ず各農家をまわって来ます。「おぢんめ」とは、絵馬のことなのです。おばあさんからは、何枚かの「おぢんめ」と幟を買います。確か荒神様に使うおぢんめは、馬の絵と鳥の絵が書いてあるもので、初午に使うおぢんめは狐の絵が書いてあります。五色の幟もいっしょに買いました。幟に書く字は、家により多少は違いましたが、私の家では「正一位稲荷大明神」と書きます。

江古田地域センター『江古田今昔 PARTII』より抄録

事業報告

各種事業経過

1991年7～9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	寄贈資料展 速報展中野の遺跡	(6月25日)～7月14日 7月23日～9月8日
各 種 調 査	区内板碑調査 中野城山遺跡調査撤収	7月1日～9月30日 7月23日(資料等整理継続中)
学習・講座	夏休み郷土学習相談室 相談員：区内小中学校教諭・資料館員 古文書講座 講 師：大友一雄氏・白井哲哉氏	8月21日～24日 9月21日～(11月16日)
そ の 他	学芸員実習 4 大学7人実習 臨時休館 (館内消毒および清掃)	7月30日～8月13日 9月13日～17日



▲ 実践!! 企画展示の準備—学芸員実習—

寄贈資料一覧

1991年5月～7月
敬称略・受入順

資 料 名	点数	氏 名
行李	1	奥泉 正一
金太郎人形・市松人形	2	高崎幸太郎
地下鉄開通記念乗車証他	10	渡辺 幸雄
理容術営業従業員名簿	1	奥田理髪店
指物師道具他	一式	氷見 光治
雛人形	一式	伊藤 澄江
帳面たんす	1	横山登美子
絵図	2	大沼 ハツ
雛人形	一式	檜垣 辰夫
セルロイド製筆入れ	2	遠藤 初子
屏風	1	海宝千代子
雛人形他	一式	北浜 清子
雛人形	一式	石黒 敬子
こま・土型他	8	和田 実
はかり	1	秋田きみ子
成丸器他医薬用具	15	丸山 幸三
人形の頭	一式	数沢 一枝
浮世絵・かんざし他	多数	江橋 利子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

NEWS

※新刊書のご案内

『遠藤山遺跡発掘調査報告書』 ¥1200
区内ではじめて上高田5丁目で発見された古墳3基をはじめ、縄文時代の炉や弥生時代の住居跡を調査した報告書です。

※絵葉書増刷のご案内

品切れとなっておりました館蔵の雛人形のセットの増刷ができました(5枚1組 ¥120)
資料館の販売コーナーでお求めください。

※テレホンカードのご案内

品切れとなっておりました江古田の獅子舞巡行図のテレカができました。(50度数 ¥700)

NEWS

入館状況

1991年7月～9月 (72日間) (人)

一 般	行政視察	学校教育	合 計
10,776	67	268	11,111

1990年10月～1991年9月 (290日間) (人)

一 般	行政視察	学校教育	合 計
39,591	1,076	3,361	44,028

発行年月日 1991年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 3中教社社第8号)